

彩の歳時記

平成二十五年 一月

長き夜の 遠の眠りの 皆目醒め 波乗り船の音の良きかな



「長い夜の深い眠りから皆が目覚める。宝船が波に乗って進む音のなんて気持ちの良い夢だろうか。」
「七福神が宝物満載して福を授けにくる船」宝船に添え書きされた歌で回文。

古文、正月や節分に運勢を占う風習があり、一年で最初に見る「初夢」に一喜一憂、良い夢を見るため、この絵を正月に枕の下に敷いて寝ると良い夢が見られるというもの。

「なみのり(実り)・「遠の(十の)・「長き夜・長き世・(長寿・時代の波)・「船(宝船)

・不音(静かな)などの言葉遊びも豊富。七福神は、ヒンドー教(大黒・毘沙門・弁才)

道教(福祿寿・寿老人) 日本土着(恵比寿・大国主) が混じった神仏習合からなる

日本的信仰。室町時代末頃から信仰され、七福神巡りは、正月の風物詩として今も盛ん。

一月の異称

睦月 親族一同集って宴をする「睦び月(むつびつき)」他に祝月、初春など。

一月の暦

一日 元旦

四方拝(しほうはい)は、一年最初の宮中儀式。天皇が四方を拝して豊作と無病息災を祈る。

二日 初夢

★第八十九回箱根駅伝 正式には東京箱根間往復大学駅伝競走

1920(大正9)年に第1回大会、1956(昭和31)年からは、1月2日に往路、3日に復路を走る。

★新年一般参賀 二重橋から皇居入場。

両陛下、成年の皇族方が宮殿で計七回参賀を受けられる。

四日 御用始(ごようはじめ)1873(明治の)年から、官公庁は12月29日から1月3日までを休暇とする。

五日 小寒

寒の入り。この日から節分(立春の前日)までを寒中(寒の内とも)と言う。

六日 消防出初め式

1959年に旗本率いる定火消が上野東照宮前で一年の働きを誓った日に因る。

七日 七草

「御形繁鎌仏座松清白これぞ七草」、春の若菜を摘む日本古来の「若菜摘み」

と一年の息災を願う「七草粥」を食す古代中国の習慣に因り、平安時代に宮廷行事となり、江戸時代に一般に定着した。

八日 正月事納め 正月の各種行事・飾りを終える日。

十一日 鏡開き 年神に供えた鏡餅を食べ、家族円満(鏡の円はめでたい)を願う。切るではなく開く。

十四日 成人の日 第二月曜日。国民の祝日。

十五日 小正月 七日までの松の内を「大正月」と呼び、この日をこう呼ぶ。

十七日 阪神淡路大震災記念日 1995年(平成7年)のこの日、M7.3の地震が発生、死者約6300人、30万人以上の方が避難所で生活を行なった。

二十日

大寒【二十四節気】寒の真ん中で、一年で最も寒い時期である。

二十二日

黙阿弥忌 歌舞伎作者・河竹黙阿彌【1816～1893】の忌日。坪内逍遙は「明治の近松、我国のシェークスピア」と称讚した。人気が高く最多上演作家。『三人吉三廓初買』『青砥稿花紅彩画』などの名せりふに、『月も朧に白魚の・』『知らざあ言つて聞かせあしよう。』『問われて名乗るもおこがましいが』など人口に膾炙している。



一月の歌

たこのうた 1910(明治43)年、『尋常小学読本唱歌』

「紙鳶」は「たこ」と読む。武者の顔などを描いた「絵だこ」や「龍」などの字を書き入れた「字だこ」がある。怖い顔をした奴(やっこ)や竜や虎の絵が悪霊を追い払う意味があったとか。今は、カイトなど洋風の凧も多く、街の中でなく、河原などで大空に技を競って飛ぶ姿が見られる。

一 紙鳶紙鳶揚れ。風よくうけて、雲まで揚あがれ、天まで揚れ。
二 繪紙鳶に字紙鳶 どちらも負けず、雲まで揚れ、天まで揚れ。

